

1 単元名 近現代の日本と世界

「国際社会と日本」(全4時間)

笠松町立笠松中学校 北村昌弘

2 単元のねらい

高度経済成長以降の我が国の動きを世界の動きと関連させてとらえ、経済や科学技術の急速な発展とそれに伴う国民の生活の向上や国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことに気づくことができる。

我が国の歩んできた道を振り返り、広い視野に立って我が国の文化と伝統の特色を考え、社会の一員としての自覚に立って明るい未来の創造に意欲をもつことができる。

3 単元で培いたい学び方

高度経済成長以降の我が国の動きを世界の動きについて、様々な資料を適切に収集、選択、活用して、世界の動きと関連させて考える学び方。

4 内容のまとめりとごとの評価規準 歴史的分野の内容(5) 「近現代の日本と世界」

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解
我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きに対する関心を高め、意欲的に追究し、国際協調の精神を養い国民としての自覚をもとうとする。	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きから課題を見だし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きに関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きを理解し、その知識を身に付けている。

5 単元の評価規準

	ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解
単元の評価規準	高度経済成長以降の我が国の動きに対する関心を高め、意欲的に追究している。	高度経済成長、沖縄返還など節目となる歴史的な事象を取り上げて、高度経済成長以降の我が国の動きを多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	高度経済成長以降の我が国の動きに関する文献、映像、統計・グラフ、新聞、見学・調査の結果などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を表現している。	高度経済成長以降の我が国の動きを世界の動きと関連させてとらえ、経済や科学技術の発展とそれに伴う国民生活の向上、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことに気づき、その知識を身に付けている。
学習活動における具体的評価規準	急速な経済発展をとげたことについて、自分の思いを書いている。 【第1時 ノートの記述】	国際社会の一員としての自覚に立ち、2つ以上の視点から自分の思いを書いている。 【第4時 ノートの記述】	日本の国際社会復帰以降の世界の動きについて資料から読み取っている。 【第2時 授業中の発言】	期待されている日本の約割について、2つ以上の視点をつなげて説明している。 【第3時 ノートの記述】